

健康的で 明るく 笑顔の絶えない ふるさとづくりを目標に、地域の活性化に貢献したい

事業目的

1. まちづくりを図る活動
2. 環境の保全を図る活動
3. 経済活動の活性化を図る活動

設立認証年月日:2007年10月31日

設立年月日 :2007年11月 5日

当初は、日本の国花である“桜”で賑わう地域づくり



特定非営利活動法人

How to 21 Club

(ハウ ツー 21 クラブ)

本部: 〒899-0132 鹿児島県出水市下知識町229番地

経緯

1. 鹿児島県立吉野公園を中心に開催された**花かごしま2011**に協賛したこと
2. 西日本新聞専属の空間コーディネーター寺尾順子氏(当時)の長島町の視察に道案内をしたこと
3. ぐるっと一周長島フラワーロードづくり、道の駅だんだん市場の開設までの3年間、先進地視察などを案内
4. 国道3号線 国土交通省 出水市役所 NPOとの三者ボランティア協定を結び、活動開始。
 - 米ノ津交差点から愛甲商店までの片道約1200mの往復緑地帯
 - 障がい者就労支援NPO法人SunPeaceら2団体と農福連携をスタート
5. しかし、マンパワー不足で、なかなか活動が出来ない状態が続いていた。
6. 元鹿児島国道事務所、鈴木淳所長もご案内のとおり、一人ボランティア(理事長)が始まったのは約3年度から
天候が悪くない時は、夜明けから7時まで、ほとんどが草むしり。雑草対策に専念
7. 転機が訪れる
出水出身で、北海道札幌市在住の女性が、ネットブログをご覧になって、帰省される度に、活動応援
8. これを契機に、花植え隊を結成しました。



花の苗を作る人 : 種まき・育苗管理・
その苗を植える人 : 花植え隊・花壇管理
咲いた花を楽しむ人 : 出水市民や内外からの来訪者

出水市・出水市自治会連合会と家庭の台所から出る
天ぷら油のリサイクル運動にご理解とご支援を下さる市
民の方々に、感謝を込めた花いっぱい運動へと移行



直面している課題

四方を海に囲まれた日本民族は、生活基盤が農耕で、自給自足であるが故に、「奉仕をする」というDNAを持ち合わせていないので、ボランティアに参加してくれる人がなかなか見つからない。

他方、狩猟民族は、各地を移動しながら生活基盤を見出さないといけないことから、「奉仕をするDNA」を持っているのだと思う。

その違いから、なかなか花いっぱい運動に、率先して参加する人が少ないので、進捗度が牛歩のようになることが問題で困っています。

人が習慣を創り、習慣が環境を創る。 環境が習慣を創り、習慣が人を創る。

ボランティア活動を習慣にすることで、その習慣が地域の環境づくりに貢献するだろうし、環境づくりに手掛けようと思えば、それに合致した習慣(癖)を持つように努めることで、その取り組む人の人格形成は豊かになるのではと思うのです。



現在の花植え隊のメンバー

1. 吉井秀之(苗づくり)
2. 長野 豊(薬剤散布)
3. 吉井洋子(苗の管理)
4. 南鶴洋志
5. 本蔵多津子
6. 宇藤由美子
7. 竹ノ下美代子
8. 柴田繁行
9. 大矢誠一
10. 中村恭子
11. 近隣の市民



定期的に、栄養会を実施して、慰労の感謝をしています。

活動は、毎週土曜日、約2時間程度の協働活動を実施

原則的に、午後2時から4時までの2時間

但し、夏時間7月～9月は、午後3時から4時30分までの1時間30分

苗の管理係は、水やり専門で、薬剤散布(農薬は使用しません)
植物活性酵素や有機液肥を、動力散布するときのみ。

又、早朝ボランティアを率先する人もあり、無理な活動にならないように要請しています。



出水市花いっぱいプロジェクトの起爆点

私達の活動が、出水市の花いっぱい運動へと発展しました。



椎木伸一出水市長が誕生した翌年2月、東光山公園に桜の苗木を5本寄贈しました。
(ヒマラヤ桜・伊豆の踊子・河津桜・枝垂れ桜・八重桜)
この植樹式にて、出水市花いっぱい運動の起点にすると市長が宣言されました。



出水市道路河川課に専門部署を配置して、「花いっぱいプロジェクト」は活動開始。出水市花いっぱい運動協議会の発足と共に、委員の一員として参加しています。

観光に必須の要件は、1, 綺麗な事、2, 美味しいものがある事、3, 楽しめる事だと思います。

その観光には、ゆっくりくつろげる宿泊施設の有無にあります。温泉旅館が少ないのが欠点で、日帰り旅行(ピクニック)になるのは、少し残念です。出水に行けば、四季を通じて、花を楽しめるし、美味しいグルメも揃っているよと、女性の興味を引き付けることで、流入人口増になれば、地域の経済は潤うのではないかと、その分野に貢献できる地域づくりに勤しむことにします。



国の特別記念物に指定されている鶴の世界最大の越冬地であることから、2021年にラムサール条約に登録され、2022年日本で初めてラムサール条約批准の自治体に認証されました。出水平野の湿地帯は野鳥が多く棲息する地域でもあります。



若かりし頃の吉井秀之理事長